

暮らしの水を守る

水を大切に使い、節水を心がけて

利根川水系で3年ぶりに10%の取水制限が実施されるなど、今夏は特に渇水が心配されていますが、みなさんは荒川の水が暮らしを支えているをご存知ですか。

荒川の水は、「首都圏の水がめ」と言われる利根川の水と合わせて、埼玉県と東京都の約1700万人の水道用水として利用されています。そのほかにも農業用水、工業用水、発電用水としても利用されており、荒川の豊かな水がさまざまな分野で暮らしを支えているのです。

川の流量は季節によって大きく変わります。また、川的环境を維持するための水も必要です。暮らしの水を安定して確保するため、荒川・利根川上流のダム群などを有効に運用しています。

水は、こうした施設で開発した貴重な資源です。普段から節水を心がけましょう。

水防災意識社会って何だろう



荒川流域に残る水塚。敷地の一部が高くなっているのが分かります（川島町）

洪水を前提とした流域の暮らし 先人の知恵や記憶を今に生かそう

近代的改修が始まる以前、流域にははん濫を前提として暮らす知恵がありました。浸水時の移動手段になる舟を軒下などに保管した「上げ舟（あげぶね）」や、敷地の一部を高く土盛りして建物をつくり食料や家財などを浸水から守った「水塚（みづか）」などが代表的なものです。

また、住民一人一人にも「地域を守る」という高い意識がありました。「14、15歳でしたが、土手際の自宅を守るために暴風雨の中を堤防に上がりました。当時は、みんなで守るのが当たり前だったんですよ」。

荒川の堤防が決壊した昭和22年のカスリーン台風。越水する堤防の上で、水防組合の人と一緒に土のうを積んだ方の経験談です。

近代的改修が始まって間もなく100年。荒ぶる川と共に暮らしてきた流域の先人のように、水害への知識と心構えを持って行動するにはどうしたらよいのでしょうか。今回は「もしもの事態」について考えます。

荒川上流河川事務所
×

心が叫びたがってるんだ。

荒川の上流、秩父を舞台にした
劇場アニメ「心が叫びたがってるんだ。（ここさけ）」との
コラボが実現しました。主人公たちが
4回にわたって荒川の今を紹介します。

【次回掲載は10月頃予定】



ほらっ、落としちゃうよ。
水は大切にしくちゃ

荒川の豊かな水が
暮らしを支えています！

都市部に生まれた広大な水辺空間 彩湖は「平地のダム」です

東京外環自動車道が荒川を跨ぐ幸魂大橋の眼下に広がる荒川貯水池「彩湖」。この広大な水辺が「平地のダム」であることをご存知でしょうか。貯水量は1千万m³超。渇水時には、ここに貯めた水を秋ヶ瀬取水堰の上流に補給して暮らしの水を守っています。洪水の時には、河川の洪水の一部を貯める器にもなります。

また、併設する浄化施設は、荒川水循環センターの下水処理水をさらに浄化して放流するもので、放流量と同じ量の河川の水を水道用水として取水できる仕組みです。

彩湖と浄化施設を活用して、最大で毎秒3.5m³の暮らしの水を新たに利用できます。



荒川貯水池「彩湖」。広大な水辺空間は、暮らしの水を守る平地のダムです

今夏の流量不足で、彩湖が水を補給 浄化施設も稼働して水道用水を確保

梅雨でも降雨が平年を下回ったことで、今夏、荒川の流量が低減。荒川水系のダム群から補給を行い、必要な流量を確保しました。そのうち荒川貯水池（彩湖）では、利水補給を5月9日から断続的に実施し、8月中旬までに合計で1700万m³の水道用水を補給しました。

また、5月27日からは併設する浄化施設からも断続的に補給を実施しており、8月中旬までに合計約1000万m³の水道用水を補給しました。

これらの施設の補給量の合計は、5月から8月中旬までで2700万m³（東京ドーム約22杯分）にもなります。



荒川上流部に位置する浦山ダム。補給により貯水位が一時低下

引き続き節水にご協力を

今年は、利根川水系では6月から10%の取水制限が実施されてきました。梅雨期には、「首都圏の水がめ」といわれる利根川水系のダム群の貯水量は過去最低レベルとなりました。

台風9号などによる降雨により河川の流量が増加したことから、現在※は一時的に取水制限は緩和されていますが、引き続き日常生活において節水にご協力をお願いします。

※平成28年8月25日時点

荒川図画コンクール募集中！ 荒川図画コン で 検索

●原画：山口真未 ●監修：田中將賢 ●仕上げ：中島和子 ●特約：森山博幸 © KOKOSAKE PROJECT